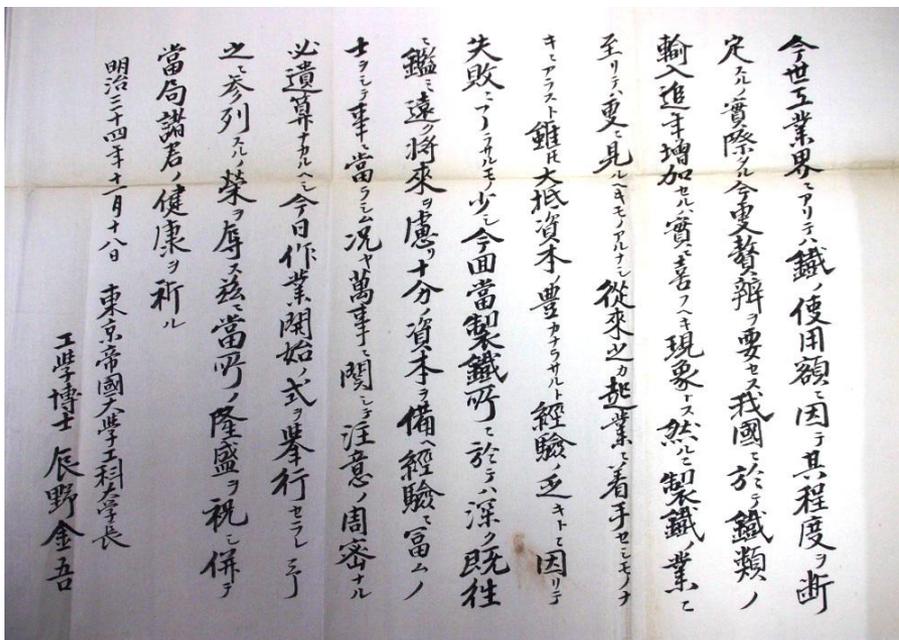


作業開始式祝辞・祝電

明治三十四年十一月十八日、内外の要人を招待して盛大に当所の作業開始式が執り行われました。史料室には、招待者のリストアップから始まり、式次第、伏見宮殿下の御令詞や平田農商務大臣の式辞の草案づくり、列車・船舶・旅館の手配、式次第、式典当日の役割分担等々に至る経過を記録した作業開始式関係の綴りが四冊保存されています。ここでは、辰野東京帝国大学工科大学長、中澤京都帝国大学理工科大学長の祝辞、小村外務大臣・井上元鉄道庁長官連名の祝電を御紹介します。

東京帝国大学工科大学長辰野金吾博士の祝辞



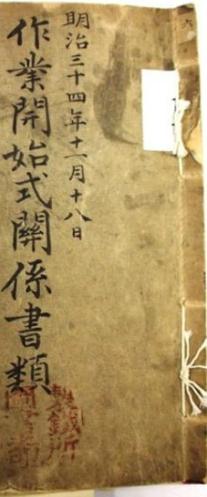
今世工業界にありては鉄の使用額に因りて其の程度を断定するの實際たる今更贅弁(ぜいべん)を要せず。我が国に於いて鐵類の輸入追求増加せるは実に喜ぶべき現象とす。然るに製鐵の業に至りては更に見るべきものあるなし。従来之が起業に着手せしものなきにあらざると雖も大抵資本の豊かならざると經驗の乏しきに因りて失敗に了(おわ)らざるもの少なし。

今回當製鐵所に於いては深く既往に鑑み遠く将来を慮(おも)んばかり十分の資本を備え經驗に富むの士をして事を富(た)あたらしむ。況(いは)わんや万事に關して注意の周密なる必ず遺算(いさん)なかるべし。

今日作業開始の式を挙(こ)げられ予之に參列するの榮(さか)を辱(は)じよくす。茲(こ)こに當所の隆盛(たか)を祝(いわ)し併せて當局諸君の健康を祈(いの)る。

明治三十四年十一月十八日 東京帝国大学工科大学長
工學博士 辰野金吾

明治三十四年十一月十八日
東京帝国大学工科大学長
工學博士 辰野金吾



辰野金吾博士は日本の近代建築を築き上げた第一人者として著名な人物です。特に東京駅や旧日本銀行本店の設計者として有名です。
北九州地域においても松本家住宅(現西日本工業倶楽部)、安田製釘所(現安田工業八幡工場)、旧百三十銀行など、博士の設計した建築を見ることができ

京都帝国大学理工科大学長中澤岩太博士の祝辞

祝辞
 茲ニ製鐵所作業開始式ニ當リ觀多其席末ニ班スルヲ得タルハ岩太ノ最モ光榮トスル所ナリ
 抑本所ハ海陸運輸ノ要衝ニ中リ燃料需用利便ニ據リ實ニ斯業上形勝ノ位地ヲ占メ加之規模ノ雄大ナル營造ノ豪壯ナル設備ノ完全ナル用意ノ周到ナル帝東洋ニ於テ破天荒ノ事業ニシテ其器具機械ニ悉ク最新式ヲ採用セラルルハ蓋歐米諸國ニ於テモ希ニ見ル所ト信ス豈ニ信觀ナラズヤ嗚呼此一大工場ノ設置ヲ夙ニ企圖シ協賛シタル議會及當路者ノ卓見英斷ハ吾人ノ永ク祀レテ忘ル可クシテ勿論此大事業ノ創立ヲ僅々ノ歲月間ニ經營竣切シタル當局者ノ苦心慘懷亦以テ想ベドトナス近年帝國ノ國運驟ニ勃興シ其軍備ノ其工業ノ漸ク世界列國ノ耳目ヲ衝動シツアルニ際シテ此偉大ナル本所ノ開始ヲ見ルハ國家ノ爲メ慶祝ノ所ナリ
 希クハ本所事業ノ基礎ニ鋼鐵ノ字キヨリ本所事業ノ發達ニ若松ノ緑ト一般愈益ノ幸キ榮ヘテ窮極アルナキコトヲ之ヲ祝辞トナス
 明治三十四年十一月十八日
 京都帝国大学理工科大学長 中澤岩太

祝 辞

茲（ここ）に製鐵所作業開始式に当たり其の席末に班するを得たるは岩太の最も光榮とする所なり。抑（そもそ）も本所は海陸運輸の要衝に中（あたり）燃料需要の利便に據（よ）り實に斯業上形勝の位地を占め、加之これにくわえ規模の雄大なる、營造の豪壯なる、設備の完全なる、用意の周到なる、資（た）だに東洋に於いて破天荒の事業なるのみならず、その器具機械の悉（ことごと）く最新式を採用せらるるたるは、蓋（け）だし歐米諸國に於いても希まれ（に）みる所なりと信ず。

豈（あ）に偉觀ならずや、嗚呼此の一大工場の設置を夙（つと）に企圖し協賛したる議會および当事者の卓見英斷は、吾人の永く記して忘れべからざるものたるはもろろん、此の大事業の創立を僅々の歲月間に經營竣功したる当局者の苦心慘憺亦（また）以て想うべしとなす。

近年帝國の國運、驟（に）わか）に勃興し、其の軍備に其の工業に漸く世界列國の耳目を衝動しつつあるに際して此の偉大なる本所の開始を見るは恂（まこと）に國家の爲め慶祝に耐えざるなり。

本所事業の基礎は鋼鐵の窄（かた）きよりも窄く本所事業の發達は若松の緑と一般、愈益（ますます）幸（ゆ）き榮えて究極あるなきことを之を祝辞となす。

明治三十四年十一月十八日

京都帝国大学理工科大学長
 正五位勲四等工学博士 中澤 岩太

門司新報や福岡日日新聞等によれば、この辰野金吾博士と中澤岩太博士の二つの祝辞、作業開始式当日読み挙げられたのは京都帝国大学理工科大学長の中澤博士の祝辞だけだったようです。前年の七月に最初の卒業生を送り出した新生の京都帝国大学に花を持たせたということでしょうか。ちなみに河内貯水池や炭滓線の設計・建設の責任者として有名な沼田尚徳技師は、京都帝国大学の第一期生でした

小村外務大臣・井上元鉄道庁長官連名の祝電

By	Inoemasaru Komura	Station	Yawatamura Buzen
Class	Original Office Shanghai	Remarks	
No.	8498	Words	7
Date	18th 11/10	Time	5.20 P
Inoemasaru Komura Congratulations			
[Signature]			

上海発の小村外務大臣・井上元鉄道庁長官連名の祝電です。 Inoemasaru Komura Congratulations とありますが、電信とアルファベットとの変換の際に井上勝のスペルを間違っただけのものと思われます。

小村寿太郎は著名な歴史上の人物ですが、外交官として、製鐵所創立に際しては、海外鉄鋼情報の収集や清国湖北省漢陽鉄政局との鉍石購入交渉を全面的にバックアップしました。

井上勝は長州ファイブのひとりで、我が国で最も早く西欧の近代技術に接した一人であり、日本の鉄道の父と呼ばれた人物です。鋼製レールの国産化を誰よりも待ち望んでいました。東京駅丸の内駅前には堂々たる彼の銅像がありました。(現在東京駅復原工事のため撤去されています。)

余談になりますが、酪農製品で有名な小岩井農場の「井」は井上勝の「井」です。(「小」は小野日本鉄道社長(現在の東北本線)、「岩」は岩崎彌之助三菱会社社長。三人が英国上流階級の生き方を範とし、引退生活のために造ったのが小岩井農場です。)